

# 病害虫発生予察情報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 4月の病害虫発生予報

### 【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	トリコデルマ、リゾプス、フザリウムによる苗立枯病	並	—	果樹	<b>リンゴのハダニ類</b>	<b>多い</b>	やや早い
	ピシウムによる苗立枯病	並	—		リンゴのリンゴコブアブラムシ	少ない	やや早い
	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病による苗立枯性病害	並	—		ニホンナシの黒星病	やや少ない	やや早い
	褐条病による苗立枯性病害	少ない	—		ニホンナシのニセナシサビダニ	並	やや早い
	ばか苗病	やや少ない	—		ブドウの黒とう病	並	やや早い
大麦	雲形病	少ない	—		ブドウの晩腐病	並	やや早い
	うどんこ病	少ない	—		カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	少ない	やや早い
野菜	<b>タマネギのべと病</b>	<b>やや多い</b>	—		花き球根	チューリップの褐色斑点病	並
果樹	リンゴの黒星病	少ない	やや早い	チューリップのモザイク病		並	—
	<b>リンゴの褐斑病</b>	<b>やや多い</b>	やや早い	チューリップのアブラムシ類		並	並
	リンゴのうどんこ病	並	やや早い				

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課  
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974  
 情報参考 URL  
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

# I 水 稲

## 1 トリコデルマ、リゾプス、フザリウムによる苗立枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 育苗資材の衛生管理と、育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
  - ・ 防除指針（2年度）：16～18 ページ参照

## 2 ピシウムによる苗立枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 育苗資材の衛生管理と、育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
  - ・ 防除指針（2年度）：17～18 ページ参照

## 3 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病による苗立枯性病害

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 育苗資材の衛生管理を徹底する。
  - ・ 種子消毒を徹底する。
  - ・ 温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、催芽前または催芽時に食酢処理又は生物農薬を併用し防除効果を高める。
  - ・ 出芽期、緑化期の温度は30℃を上回らないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
  - ・ 有機物含量の高い軽量培土を使用することにより発病を抑制できる。
  - ・ 防除指針（2年度）：11～19 ページ参照

## 4 褐条病による苗立枯性病害

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ 前年の育苗障害調査では、発生箇所率が0%で平年(5.3%)より低かった。

(3) 防除対策

- ・育苗資材の衛生管理を徹底する。
- ・種子消毒を徹底する。
- ・温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、催芽前または催芽時に食酢処理又は生物農薬を併用し防除効果を高める。
- ・出芽期、緑化期の温度は 30℃を上回らないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
- ・防除指針（2年度）：11～19 ページ参照

## 5 ばか苗病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の育苗障害調査では、発生箇所率が 2.2%で平年(9.3%)より低かった。

(3) 防除対策

- ・種子消毒を徹底する。
- ・育苗資材の衛生管理を徹底する。
- ・温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、生物農薬の併用で防除効果を高める。
- ・防除指針（2年度）：11～15 ページ参照

## II 大 麦

### 1 雲形病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・近年の発病が少なく、種子の保菌程度が低いと予想される。

(3) 防除対策

- ・排水対策を徹底する。
- ・防除指針（2年度）：49ページ参照

### 2 うどんこ病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・3月10日調査の発病度は0で平年(0.1)より低かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針（2年度）：48ページ参照

## Ⅲ 野菜

### 1 タマネギのべと病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- 【多発要因】
- ・前年10～12月の気温は11.6℃で平年(10.9℃)よりやや高く推移した。
- (3) 防除対策
- ・排水対策を徹底する。
  - ・防除指針(2年度)：102ページ参照

## Ⅳ 果樹

### 1 リンゴの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- 【少発要因】
- ・前年の発生量は少なかった。
- 【早発要因】
- ・3月の気温は平年より高く、4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
- ・開花直前及び落花直後が重要防除時期なので、防除を確実に実施する。  
なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の開花始期は4月22日、開花盛期は4月27日である。
  - ・低温や降雨により感染が助長されるので、薬剤の散布間隔を開けすぎないように注意する。
  - ・防除指針(令和2年度)：138, 141～142, 146～147 ページ参照

### 2 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- 【多発要因】
- ・前年の発生量はやや多かった。
- 【早発要因】
- ・3月の気温は平年より高く、4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
- ・病原菌は落葉上で越冬し、春以降、落葉上から子のう胞子が飛散することから、前年、発生が多かった園では、被害落葉をほ場外に持ち出す等落葉処理を徹底する。
  - ・薬剤の到達性を高めるため、混み合った枝や薬剤がとどきにくい徒長枝等をせん除する。
  - ・前年に褐斑病の発生が多かった園や発生が懸念される園では、春先からの薬剤の散布量を十分確保する。

・防除指針（令和2年度）：138, 141～142, 146～147 ページ参照

### 3 リンゴのうどんこ病

- (1) 予報内容            発 生 量：並  
                             発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
  - ・前年の発生量は平年並であった。
  - 【早発要因】
    - ・3月の気温は平年より高く、4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・うどんこ病の被害枝、一次発生花（葉）そうは見つけ次第せん除する。
  - ・開花期前後から落花20日後頃までは重要防除時期であるので、防除を確実に実施する。
  - ・防除指針（令和2年度）：138, 141～142, 146～147 ページ参照

### 4 リンゴのハダニ類

- (1) 予報内容            発 生 量：多い  
                             発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・前年の発生量は多かった。
  - 【早発要因】
    - ・3月の気温は平年より高く、4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・マシン油乳剤による防除は発芽直後の時期を逸しないよう注意する。  
なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の発芽日は3月24日である。
  - ・越冬密度を下げるため粗皮削りを励行する。
  - ・防除指針（令和2年度）：138, 143, 145, 148 ページ参照

### 5 リンゴのリンゴコブアブラムシ

- (1) 予報内容            発 生 量：少ない  
                             発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・前年の発生量は少なかった。
  - 【早発要因】
    - ・3月の気温は平年より高く、4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・発生が多い場合は、ウララ DF を散布する。
  - ・防除指針（令和2年度）：138, 144, 147～148 ページ参照

### 6 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容            発 生 量：やや少ない  
                             発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・前年の発生量はやや少なかった。
  - 【早発要因】
    - ・3月の気温は平年より高く、4月の気温はほぼ平年並と予想されている。

### (3) 防除対策

- ・園内に残っている落葉は伝染源となるので、落葉処理（園外での処分、乗用草刈機による粉碎、ロータリーによるすき込み等）を徹底する。  
なお、落葉処理は子のう胞子の飛散が始まる前の3月中旬までに完了する。
- ・芽基部病斑は見つけ次第、基部から切除し、園外で処分する。
- ・開花直前及び落花直後は最重要防除時期であるので、薬剤の散布間隔が開けすぎないように注意し、防除を確実に実施する。  
なお、果樹研究センターにおける平年の「幸水」の開花始期は4月18日、開花盛期は4月21日である。
- ・品種や園地によって開花ステージが大きく異なるような場合は、それぞれの品種や園地の開花ステージに併せて防除を実施する。
- ・防除指針（令和2年度）：149, 151～154, 157 ページ参照

## 7 ニホンナシのニセナシサビダニ

- (1) 予報内容            発生量：並  
                             発生時期：やや早い

### (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

#### 【早発要因】

- ・3月の気温は平年より高く、4月の気温はほぼ平年並と予想されている。

### (3) 防除対策

- ・越冬密度を下げるため粗皮削りを励行する。
- ・前年発生が多かった園では、発芽前にクムラス又はマシン油乳剤を散布する。  
なお、マシン油乳剤については、暖かい日を選び、散布する。
- ・防除指針（令和2年度）：149, 156, 158 ページ参照

## 8 ブドウの黒とう病

- (1) 予報内容            発生量：並  
                             発生時期：やや早い

### (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

#### 【早発要因】

- ・3月の気温は平年より高く、4月の気温はほぼ平年並と予想されている。

### (3) 防除対策

- ・被害枝や棚線に残っている巻きづるを除去し、ほ場外に持ち出す。
- ・発芽前及び発芽直前の時期を逸しないように防除を実施する。  
なお、果樹研究センターにおける平年の露地栽培「巨峰」の発芽時期は4月15日である。
- ・前年に黒とう病の発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、春先からの薬剤の散布量を十分確保する。
- ・降雨が多いと感染が助長されるので、防除を確実に実施する。
- ・「シャインマスカット」は本病にり病しやすいため、防除を確実に実施する。
- ・防除指針（令和2年度）：160, 162～163 ページ参照

## 9 ブドウの晩腐病

- (1) 予報内容            発生量：並  
                             発生時期：やや早い

### (2) 予報の根拠





# 北陸地方 3か月予報

(予報期間3月から5月)

2月24日  
新潟地方気象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

3月 天気は数日の周期で変わるでしょう。  
気温は、高い確率60%です。

4月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

5月 天気は数日の周期で変わるでしょう。  
平年と同様に晴れの日が多い見込みです。  
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

項目	地域	期間	確率 (%)		
			低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	北陸地方	03月~05月	20	30	50
		03月	10	30	60
		04月	30	40	30
		05月	20	40	40
降水量	北陸地方	03月~05月	30	40	30
		03月	30	40	30
		04月	30	40	30
		05月	30	40	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)